
WINDY SPORTS JAPAN 公式ルール



【MUAYTHAI】

平成 27 年 6 月 24 日 作成

平成 27 年 7 月 1 日 認証

平成 27 年 8 月 16 日 施行

第1条 出場規定

WINDY SPORTS（以下、WINDY）では、出場する場合は、義務教育課程を修了した、心身ともに健康な15歳以上の男女を原則とする。出場の際は、所属ジム及び道場の最高責任者の同意を得ることを義務付けるものとする。各団体に所属している選手が出場する場合は、当該所属する団体の長の承認を要するものとする。なお、プロマッチ以外のルールで本戦に出場する場合は、年齢の規定は設けないものとする。また、B型肝炎、C型肝炎、HIVの1年以内の検査表のコピーを提出するものとする。

第2条 試合形式

試合形式は、以下の通りに定めるものとする。

①ラウンド構成

3R制及び5R制を採用する。延長戦はなしとする。

②インターバル

1分とする。

③その他

スポーツマンシップに則り、ファーストラウンド及びラストラウンドの開始時は、必ず互いにグローブを合わせてから試合を開始するものとする。また、王座決定戦及びタイトルマッチは、試合前にワイクルーを行うものとする。

第3条 有効打

有効打は、以下の通りに定めるものとする。

①パンチ

ジャブ、ストレート、フック、アッパー

②キック

ローキック、ミドルキック、ハイキック、前蹴り、ヒザ蹴り、後ろ蹴り、後ろ回し蹴り、サイドキック、踵落とし

③ヒジ打ち

縦ヒジ、横ヒジ、脳天への打ち込み

を有効打とし、バックブローや胴回し回転蹴りなどの回転技は有効とする。ただし、マットに手をついてからの蹴り技は禁止とする。

また、首相撲の秒数制限は設けないものとし、ブレイクのタイミングは、当該レフェリーの

裁量に一任するものとする。また、脚をキャッチした後の歩行は2歩までとし、その時までに行う攻撃は有効とする。

第4条 審判団

主催者が指名した、1名のレフェリー及び3名のジャッジの計4名で構成されるものとする。

第5条 ダウン

有効打により相手が倒れた場合、あるいは、一方的に攻め込まれ、ダメージがない状態でも防戦一方となった場合に、レフェリーはダウンを宣告するものとする。レフェリーはカウント9までコールすることを原則とするが、カウント中に試合続行不可能とみなした場合は、カウントを途中で止めることを認めるものとする。なお、フラッシュダウンはダウンとみなさない。

なお、ダウンを奪った選手は、速やかにニュートラルコーナーへ移動し、試合再開の合図を待つものとする。ダウンカウントは、ニュートラルコーナーへ移動したことを、当該レフェリーが確認した時からスタートするものとする。

第6条 反則

頭突き、噛みつき、関節技、寝技、自発的なクリンチ、さば折、故意によるサミング及び下腹部への攻撃、ロープを掴みながらの攻撃、レフェリーがブレイク・ストップの合図の後の攻撃、ダウンカウント中の攻撃、倒れた相手への攻撃、セコンドによる相手選手及びレフェリーへの暴言は反則行為とし、レフェリーは反則行為を行った選手に対して減点を課すことができる。なお、減点が全ラウンドを通じ、累積で3点に到達した時点で失格となる。

第7条 試合の勝敗及びその決定

試合の勝敗は、以下の通りに決するものとする。

①ノックアウト

有効打によるダウンを喫し、カウント9までにファイティングポーズが取れない場合。深刻なダメージにより、レフェリーの判断で試合ストップを命じた場合。

②テクニカルノックアウト

負傷により、レフェリーが試合続行不可能と判断した場合。

リングドクターが試合続行不可能と判断した場合。

セコンドからのタオル投入あるいは棄権の申し出があった場合。

1ラウンド中に3度のダウンが一方の選手にあった場合。全ラウンドを通して5回ダウンがあった場合。

※ただし、トーナメントの場合は、1 ラウンド中に2度のダウンが一方の選手にあった場合とする。

③判定

上記①及び②によるもので勝敗が決しない場合は、ジャッジ3名によって判定を行うものとする。勝者とする場合は、優勢票が一方に2票以上なくてはならない。

④負傷判定

偶発性のバッティング等により、試合続行が不可能と判断された場合、当該ラウンドの途中までをもって、ジャッジ3名によって判定を行うものとする

⑤引き分け

上記③及び④において、優勢票が2票以上なかった場合。

⑥無効試合

3回戦の場合は1ラウンド中、5回戦の場合は2ラウンド中に偶発性のバッティング等による負傷で、試合続行が不可能とレフェリーが判断した場合。2ラウンド以降による負傷は④を適用する。

第8条 採点基準

ダウン

ダメージ

有効打

積極性

防御

主導権

を基に、総合的な判断をしてラウンドごとに採点するものとする。

採点方法については、10点法を用いた減点方式での採点方法を採用する。採点の分類は以下の通りとする。反則があった場合は、以下の採点とは別に減点を課すものとする。

10-10 互角あるいは両選手が同じ回数のダウンがあった場合。

10-9 明らかに一方が優勢の場合、ダウンを奪ったものの、その後圧倒的に挽回された場合。また、一方が1度、もう一方が2度ダウンがあった場合。

10-8 ダウンが1度あった場合。

10-7 ダウンが2度あった場合。

第9条 ドクターチェック

試合中に負傷した選手を、リングドクターはチェックを行うことができる。ドクターチェックができるのは当該ラウンド中のみとし、インターバル中は勝敗に影響するためチェックすることはできないものとする。

第10条 セコンド

セコンドは、チーフセコンド1名とアシスタントセコンド2名の計3名までとする。インターバル中にリングに上がることができるのは1名までとする。試合中は、セコンドはリングに手をついてはならない。

第11条 階級

階級（体重設定）について、以下の通り定めるものとする

フライ級	112 ポンド (50.80kg)
スーパーフライ級	115 ポンド (52.16kg)
バンタム級	118 ポンド (53.52kg)
スーパーバンタム級	122 ポンド (55.34kg)
フェザー級	126 ポンド (57.15kg)
スーパーフェザー級	130 ポンド (58.97kg)
ライト級	135 ポンド (61.23kg)
スーパーライト級	140 ポンド (63.50kg)
ウェルター級	147 ポンド (66.68kg)
スーパーウェルター級	154 ポンド (69.85kg)
ミドル級	160 ポンド (72.57kg)
ヘビー級	160 ポンド以上 (72.57kg 以上)

上記の階級以外に、主催者及び対戦相手の選手並びに当該選手の所属の最高責任者が互いに定める体重で合意が得られた場合は、それを契約体重として試合を行うことを認めるものとする。

第12条 試合用具

試合において使用する用具について、以下の通り定めるものとする。

①グローブ

グローブは主催者が用意した WINDY 社製品のものを装着するものとする。

53.52kg 以下 6 オンス

53.53kg 以上 58.97kg 以下 8 オンス

58.98kg 以上 72.57kg 以 1 0 オンス
72.57kg 以上 1 2 オンス

②バンテージ

市販の非伸縮性の包帯及び粘着性医療用のテーピングのみとし、バンテージの中への異物の混入は禁止とする。なお、バンテージの巻き方については不問とする。

③ファールカップ及びマウスピース

ファールカップは鉄製のものの着用を義務付けるものとする。練習用の簡易的なファールカップの着用は認めないものとする。また、女性はアブスメントガードの着用を義務付けるものとする。

④皮膚への塗布

タイオイルの塗布は認めるものとする。顔面へのワセリンは少量のみ認めるが、主催者及びレフェリーがこれを妥当な量と認めた場合に限り塗布することができる。

⑤テーピング

負傷箇所があり、ドクターが着用を妥当と判断した場合にのみ認めるものとする。その際は、医師の診断書を提示し、テーピングを貼った箇所に、当該ドクターのサインを受けるものとし、サインなきテーピングの着用は無効とする。

第13条 衣装規定

キックパンツあるいはコンバットショーツのいずれかとする。ロングスパッツは不可とする。なお、衣装について、ヒモやスパンコールといった、試合に影響を及ぼすものとされる装飾品が入っている衣装は不可とする。

アンクルサポーターは布製のものに限定する。エナメル製やビニール製など、クッション性の高いものの着用は不可とする。

第14条 計量

試合に出場する選手は、主催者が指定した時刻に到着し、主催者立会いもので計量を行わなければならない。交通状況やその他止むを得ない理由で遅延する場合は速やかに主催者へ連絡するものとする。事前に連絡なき遅延は失格とする。予備計量は、本計量の1時間前より計測することができる。本計量で規定の体重を超過した場合は、計量時間から1時間以内に再計量を行うことができる。再計量時に、規定の体重をクリアできなかった場合は、当該選手は原則的に失格扱いとし、主催者が定める罰則を受けなくてはならない。

①計量超過

100グラムオーバーにつき金10万円の罰則金を主催者に支払うこととする。罰則金は、当該試合を行った日から14日以内に主催者へ支払うものとする。

②計量超過に伴う試合の成立

計量において、規定の体重に達しなかった場合は原則的に失格となるが、対戦相手が試合を臨む場合は、例外的にこれを認めるものとする。その際は、計量超過した選手は、グローブ2オンスプラス及び減点1を課したハンディキャップマッチを行わなくてはならない。

③試合が中止となった場合

上記①に加え、規定の体重に達しなかった者に対して支払う試合報酬の全額を没収とし、更に対戦相手の試合報酬の全額を補償し、対戦相手が販売したチケット代も全額徴収とする。

第15条 ルールレビュー

試合前日あるいは計量後に行われるルール説明には、当該出場選手及びセコンドは必ず参加をしなければならない。セコンドについて、止むを得ない事情で参加ができない場合は主催者にその旨の了承を得るものとするが、その際はセコンドのルールレビューに関する確認不足による責任を主催者は一切追わないものとする。ルールの最終確認はここで行うものとし、ルール説明が終了した時点で、主催者は出場関係者がルールを全て認容したものとみなすものとする。

第16条 異議申立

試合における判定に不服があった場合は、試合があった日の翌日から14日以内に、主催者に文書にて異議申立をすることができるものとする。なお、その場での口頭での異議申立は一切認めないものとする。主催者は、異議申立があった日から7日以内に、異議申立者へ回答を文書にて送付するものとする。

第17条 王座

王座決定戦及びタイトルマッチに勝利した者は、チャンピオンベルトが授与される。当該試合にて授与されたベルトは持ち回り制とし、試合終了後2週間以内に、主催者へ返還するものとする。

①防衛の意思決定

王座を獲得した日の翌日から6月以内に、防衛を行うか否かの意思決定を、主催者に報告することを義務付けるものとする。当該期間に報告がなかった場合は、防衛をする意思がないものと判断し、その王座は空位となる。

②王座獲得後における、他団体への試合出場について

防衛戦の日程の都合上、当団体の王座を保持している選手は、他団体へ出場する場合、主催者へ相談するものとする。防衛戦に支障をきたさないよう、双方の日程確認を行うものとする。

③ランキング戦

総入れ替え戦を採用する。

例えば、10位の選手と5位の選手が対戦し、10位の選手が勝利した場合は5位にランクアップとし、5位以下の選手は繰り下げでランクダウンとする。王座への挑戦に対する優先順位は、ランキング上位者より優先的に挑戦権が付与されるものとする。

④トーナメント

トーナメントを行う場合は、準決勝戦までは3分3ラウンド・2ノックダウン制とし、決勝戦は3分5ラウンド・3ノックダウン制とする。トーナメント勝者がやむを得ない理由で欠場を余儀なくされた場合は、当該試合を行った相手を敗者復活扱いとする。なお、トーナメント参戦中は、他団体への出場を禁止する。

第18条 雑則

大会規定に定められていない問題が生じた場合は、主催者及び審判団の合意によって、当該問題を判断・決断を下すものとする。